



# おひさま

教育サポートセンター  
子ども支援相談室便り  
令和3年7月号

## 子育てのヒント

### 子どもの躰しつけは、行動の前後がだいじ

「うちの子は、言うことをきかないし、反抗的」という話を耳にすることがあります。言っても言ってもきいてくれないし、言えば言うほど親子関係が悪くなっていく状態は、とても困りますよね。

子どもの躰しつけは、親が言ってきかせてして見せて、言動の手本を示し、経験させることが大切です。そのくり返しの中で、子どもはよりよい行動を身につけていきます。

そこで、今回ゲームの時間を例に子どもの行動（ゲームをする）の前後に親がどう関わっていけばいいのかを考えてみたいと思います。



(事例) ゲームをやりだしたら際限なくやるので、「もうやめなさい」「うるさい」と毎日親子げんかになってしまう。

#### 行動の前 行動につながる具体的な言葉で約束や指示を出す。

「あまり長くしない」「早めにやめる」などは、具体的ではなく、行動につながりにくい言葉です。「しっかり」「きちんと」などもわかりにくい言葉です。「30分ゲームで遊んだら、箱の中にゲーム機を片付けるよ。」と具体的な指示や約束をしておきます。



#### 行動の後 できたら嬉しい経験、できなかつたら叱らず約束通りに。

約束が守れた時に、守れて当たり前とせず、「えーっ、もう片付けたの。時計を見ていたの？すごいいねー。お母さん、びっくりしたよ！」など、たくさん褒めたり驚いたりして見せてください。それが、子どもにとっての一番のご褒美です。

約束が守れなかったときには、約束通りさっと片付けます。事前に具体的な約束をしているので、「約束だから」の一言で説明はつきます。この時、叱る必要はありません。叱られることに子どもは慣れていくので、親の言葉を右から左へと受け流すようになります。そして、最後には、約束をすること自体がもうどうでもよくなってしまいます。

ここで、子どもが泣いたり暴れたりするからと根負けしてしまったら、「泣いたり暴れたりすればゲームが続けられる」ということを教えただけのことになってしまいますので、淡々と片付けて終わり！です。喧嘩になりそうなときは、子どもから「離れる」ことです。ゲーム機を車に乗せて夕食のお買い物にでも出かけてはどうでしょうか。子どもにとっては、叱られたわけではないけど、約束を破ったために困った結果が残ることになるので、約束を守る大切さについて実感することができます。



## 「これで解決！母子登校」 水野達朗著

今年4月に出版されたばかりの本です。学校に子どもが行き渋ったら、親に何ができるのかを明確にアドバイスしてくれます。漫画で書かれているので読みやすく、イメージしやすい本です。

下のような家庭の傾向を5つの動物タイプに分けて診断できるツールがあり、わが子に合った対応が分かります。今日から使える子育てのヒントがいっぱいです。

### ①ライオンタイプ (子ども上位型)

親が子の言いなりにならないようにして、親子の関係を意識したやりとりを心がけましょう。



### ②アライグマタイプ (神経質傾向型)

命令・指示・提案的なやりとりを極力避け、自分で考えて行動することを家庭内で促し、自信をつけさせましょう。不安事は、現実にはならないことが多いと教えたほうがよさそうです。



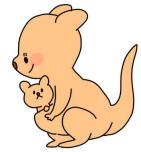
### ③ペガサスタイプ (社会規範不足型)

家庭内のルールを作って守らせたり、そうすることの大切さやそれが望ましくない理由などをきちんと伝えてみましょう。



### ④カンガルータイプ (過保護型)

過保護対応をやめ、「この子は私がいないと何もできない」の考えから「私がいなくても大丈夫なように日頃から家庭でいろんな事を教えてあげよう」の考えに変えましょう。



### ⑤ラッコタイプ (母子密着型)

自分でできることを増やすような対応を心がけましょう。大人にやってもらわなくても、ひとりで「できた」経験を積ませてひとりでも大丈夫と分かってもらえるような対応を意識するとよさそうです。



参考文献 「これで解決！母子登校」

子育てに関するどんな悩みでもお聴きします  
下記相談室へご連絡ください

やっしろ子ども支援相談室

電話や来所での相談 0965-30-1669 (9:00~14:00)

メールでの相談 kodomo-sien@yatsushiro.jp

面談での相談 八代市千丁町新牟田 千丁支所 2 F

